

長崎医療センター

座談会 Vol. 21

# 千燈照院

## EMTAC(医師同乗救急自動車)

ドクターヘリが要請できないエリアでの救急医療・病院の回りでドーナツの穴に相当する圏内でも、病院到着前診療が提供できるようになりました。

救急車に乗った我が医療チーム"EMTAC"をとり上げます。

### 座談会参加者

救命救急センター長 中道 親昭  
 救急科医師 日宇 宏之  
 看護師 近藤 千佳  
 看護師 西宮沙耶加  
 聞き手:院長 江崎 宏典

千燈照院とは…  
 長崎医療センター千人の職員  
 が力を合せて高度医療の実現  
 にまい進する姿勢を表す言葉。

### 【EMTACの概要】

江崎: EMTACの概要から教えてください。

中道: 当院敷地内にある、県央地域広域市町村圏組合消防本部(以下県央消防)、大村署久原分署の高規格救急車に医師と看護師が同乗し現場へ出動するシステムです。

江崎: 医師同乗の出動システムということですね。ドクターカーとの違いは何ですか。

中道: ドクターカーは病院が独自に車を所有して運用するものです。他にもワークステーション方式というのがありまして、地域を管轄する消防署が予備の救急車を病院に常駐させ、医師が乗るシステムもあります。EMTACは運用するシステムが異なり、当院敷地内の分署の救急車に乗るのが特徴です。分署は平時の業務をしつつ、救急医を現場に運ぶという両立を目指しています。

江崎: 地域の公的な救急システムの中に、当院の医師・看護師が同乗するということですね。どのような方が乗りますか。

中道: 救急センターの医師、看護師です。県央消防本部所属の当院にて再教育中の救急救命士及び救急救命士就業前教育の救急隊員も同乗することがあります。



救命救急センター長  
**中道 親昭**  
(なかみち ちかあき)  
 平成28年より現職

### 【EMTACの実際】

江崎: 救急医であれば乗れるのですか。

日宇: 資格は特別必要はありません。ドクターヘリのような経験がなくても乗れるシステムにしております。

江崎: EMTACの出動エリアは決まっているのですよね。

中道: ドクターヘリが出動しない、当院から救急車で15分圏内はEMTACで対応したいと考えております。

江崎: ドクターヘリでカバーできないところをEMTACで補完できるということですね。3月からの実績はいかがですか。

日宇: 実績は3月2件、4月7件となっております。予想よりは少ないです。

江崎: どのような傷病でしたか。

日宇: 内因性疾患が4例、CPAが2件、外傷が3件となっております。外傷は交通事故と転落外傷です。

江崎: 内因性と外傷性では、ドクターヘリはどちらが多いですか。

中道: ドクターヘリは導入当初は外傷が多かったのですが、徐々に内因性疾患が多くなりました。EMTACも同様の傾向をたどるのではないかと想定しております。心肺停止の患者さんは、われわれが10分以



内に到着できることもありますので、ドクターヘリより積極的に利用していただきたいです。

江 崎: 実際出勤してどうでしたか。

日 宇: 早く患者さんに接触することができ、早く治療介入できるメリットを感じております。患者さんが倒れている状況で対応できることが、印象深いです。

江 崎: ドクターヘリよりも即時性が高いですね。

中 道: 救急隊と一緒に到着しますので、情報整理からはじめます。

江 崎: 経験が必要ですね。

日 宇: 経験もですが、コミュニケーションがとても大事だと実感しております。

中 道: 救急隊がメインでマネジメントしないといけないphaseと医者が診療するphaseを見極めて対応しないと現場が混乱します。よく訓練をすることが大事です。

近藤: ドクターヘリと違う現場ですので、どのようなことを想定して対応しなければならないか、看護師も訓練をしております。

江 崎: 持参する機材はドクターヘリと同じですか。

中 道: ほぼ同じですが、12誘導心電図が検査可能なモニターを今回新たに用意しました。ターゲット疾患の1つである急性冠症候群をより早く見極めるためです。



救急科医師

日宇 宏之  
(ひう ひろゆき)  
平成23年より現職

## 【今後の展望】

江 崎: 今後の展望を教えてくださいませんか。

西 宮: EMTACの現場を経験しているスタッフも少ないのですが、現場で調整役として家族の対応、救急隊との連絡等、患者さんをスムーズに搬送できるようにしたいと考えております。

日 宇: まだスタートして2ヶ月ですが、今後の課題として要請基準の見直しも検討しております。医療センター独自のシステムですので、新しいモデルケースとして全国に発信できるようにアピールできればと考えております。

中 道: 2ヶ月に1度、要請する側になります県央消防本部とディスカッションをしていますが、少しずつ基準を改良してよいのではないかと考えております。119番通報の生の声を、EMTAC要請のために司令課がどう読み取るか、その能力にも関わりますので、キーワードがヒットしやすいような表現方法の養成基準等に改善していきたいです。

江 崎: 確かに検討が必要な事項ですね。

中 道: 他にも毎月の県央消防本部との勉強会で事案の検討会もしております。要請はできなかったけれど要請に該当する症例だったのではないかなど、発展的な検討をしております。

江 崎: 今後もぜひ頑張ってくださいと思います。本日はどうもありがとうございました。

